

解説

一方、これまでの3分類の取組状況は自治体・学校間で差が大きい。国の6年度調査によると、登下校時の見守りを地域住民など学校以外の主体が行っている

「3分類」を見直して国の指針に位置付けることは、地域・学校の裁量を確保しつつ、実情に応じた働き方改革を推進するねらいがある。

実効性確保に向けた課題は多い。自治体においては財政力や首長部局との連携体制、学校においては教員の不足・欠員、カリキュラム・オーバーロード、他職種の連携する時間の確保も

「有償ボランティアによって持続可能な支援体制を構築することが重要」と意見した。見直し案では事務職員の役割が多く示されたことを踏まえ、専門性に応じた協力を得るためにも文言の修正を求める声も。

- 2面……釧路で道高校農業教育研究大会
3面……道教大附属函館小が研究大会
連載「令和の学校」を支えるⅡ」
4面……檜山校長会 管理職研修会
8面……札幌市教委 6年度学校給食残食率

きょうの紙面

財源確保 最大の課題に

障壁になっている。

19日の特別部会では、国

など学校単独での対応が困難な案件の増加も多忙化に

道教育委員会

委員の任命

報告

文部科学大臣表彰(優良PTA(高校PTA)の被表彰団体の決定

文部科学大臣表彰(地方教育行政功労者)の候補者の推薦

文部科学大臣表彰(学校保健・学校安全関係)の候補者の推薦

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

道いじめ問題審議会特別

<

道高校農業教育研究大会

主体的な産業人育成へ

文科省・吉田調査官ら講演

【釧路発】第74回道高校農業教育研究大会および第29回全国高校農場協会北海道支部大会が7月下旬の2日間、釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれた。全道から120人が参加。研究主題「農業の持続的な発展に寄与する農業教育の推進」地域農業・社会に主体的に参画する産業人の育成」のもと四つの分科会のほか、農業に資する人材の育成などに向けた講話を実施し、農業教育の充実を図った。

道高校長協会農業部会と全国高校農場協会、全国高校農場協会北海道支部が主催。社会の変化に対応する農業教育の諸問題を研究協議し、農業担当教員の資質向上を図り、農業教育の充実・発展に資することを目的としている。

初日は農場協会の総会を行い、4分科会を開催。生産技術・経営で山口靖司教授（倶知安農業高）、環境技術・創造で伊藤利浩教授（旭川農業高）、資源活用・ヒューマンサービスで神村祐大教授（大空高）、農場運営で八重樫真由美教授（標茶高）が提言した。

2日目は、文部科学省初等中等教育局参事官高校担当付産業教育振興室教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の吉田幸人氏が「農業教育の現状について」と題して講話。農業高校の学校数や生徒数の推移、全国と比較した道内の農業科への入学状況や卒業後の就職状況などを説明した。

続いて、5～9年度を対象にした第4期教育振興基本計画の内容を確認。学習指導要領の趣旨を理解することやプロジェクト学習による吉田調査官が農業教育の今後について解説した。



吉田調査官が農業教育の今後について解説した

道教委 未来の教頭応援PJ会議

候補者確保へ取組必要

人事上配慮や特例任用等協議



道教委は7月下旬、道庁別館で第2回道立高校「未来の教頭」応援プロジェクト会議を開催した。写真。教頭候補者確保に向けた人事上の配慮や特例任用・役付暫定再任用の見通しなどについて協議した。

会議は「教頭の魅力化」「人材育成」の2点を柱に、道教委と道高校長協会、道高校教頭・副校長会が連携し、実効性のある取組を進めることが目的。

オンラインを含めたハイブリッド形式で実施し、道教委や各団体の関係者ら20人が出席した。

開会に当たり山下幹雄教職員局長があいさつ。教頭選考受検予定の見通しについて、厳しい状況を示し「今後さらなる候補者の確保に向けた取組が必要」と強調した。

その上で「皆さんから様々な視点から意見をいただき、今後取組を進めていく方針を確認した。また、2月に実施した高校教育の在り方に関するワーキンググループ審議および本年度に行った全10回の教育課程企画特別部会の内容を解説。地域に根差した教育課程の充実を図り、学校と地域、保護者との連携を強化することとした。

吉田氏は今後の農業教育や探究活動、STEAM教育等についてブラッシュアップする方針を示し「持続可能で多様な環境に対応できる個別最適な学びや協働的な学びを充実させるとともに、社会の農業に関心が高まる今、農業教育の可能性を育みたい」と訴えた。

続いて、酪農企画シベチャの久保田学氏が「地域農業・社会に主体的に参画する産業人の育成」と題して講演。酪農経営とウシの健康を両立する方法を話し、平成25年に開始した標準高校の生徒たちに向けた農場HACCPの取組を紹介した。

生徒たちとの交流から、

「つながっていききたい」と述べた。

続いて、関係各課が「高校における教頭候補者育成に向けた行動指針」に基づく直近の取組状況を説明。このほか、関係管内代表校長との意見交換の概要、8年度選考受検者の確保に係る人事上の配慮の考え方を示した。

出席者からは「候補者に対して校長が代わっても受検を促すような継続的な働きかけが必要」「管理職候補者を育成する人事上の仕組みづくりが必要」などの意見があった。

与していききたい」と話した。

飯浜学長は「互いの資源を生かしながら、北広島市の地域活性化と人材育成に貢献できることをうれしく思う。今後もこれまでのような連携事業を展開していきたい」と述べた。

富田さんは、両者の連携事業の一つ「東屋コンベティション」で最優秀賞を獲得。6年度に連携事業の第2弾として、クボタアグリフロントのアウトドアキッチンスペースを多目的に活用できるあずまやを企画した。基本設計で得た学びを振り返り「多くの人に喜んでもらえるよう、あずまやの設計に努めた。作品への愛情が全体の質につながったことを学んだ」と語った。

星槎道都大とクボタ

包括連携協定を締結

活力ある地域社会形成へ

星槎道都大学（飯浜浩幸学長）は8日、北広島市内のクボタアグリフロントでクボタと包括連携協定を締結した。写真。両者の資源をもとに、教育・研究活動の推進や環境教育・食育・持続可能な社会づくりなど幅広い分野で連携。各学部の特色を生かしながら、活力ある地域社会の形成と発展を目指す。

協定の締結は、同大の美術学部の学生たちが、同社の施設を舞台に様々な連携事業を展開してきたことがきっかけ。「組み立て式屋台実用化プロジェクト」「東屋コンベティション」「ガラス壁面デザインコンペティション」など実践型教育の一環として実施した。

協定内容には①教育・研究活動の推進②次世代を担う人材の育成およびキャリア形成支援③地域社会への貢献④環境教育・食育・持続可能な社会づくりへの寄与⑤その他前条の目的を達成するために必要と認める事項（相互の人的支援等）の5点を設定。両者の資源を活用した連携を強化し、同社の事業テーマ「食と農業の未来」について学べる機会づくりや、学部の特色を生かした連携事業などを推進していく。

協定の締結式には、同社



星槎道都大学とクボタの包括連携協定締結式の様子

31日にフォーラム

資産形成等考える

深川市教委

【岩見沢発】深川市教委は、31日午後1時30分から中央公民館で7年度生涯学習推進事業まなびすつとフォーラムを開催する。

人生100年時代に備えるお金の話をテーマに講演。セカンドライフの支出を見据えた将来設計・資産形成の考え方などに触れる。

参加対象は市民で、先着

会報 199 号 発行

中標津 高

学校のウェルビーイング向上へ

十勝教育局局長

和田 宏一 氏



横顔 2025

本年度、管内教育推進の重点の主題に「誰もが自分らしく輝き続ける十勝教育の推進」を掲げた。先行き不透明で変化の激しい社会を生き抜く資質・能力を身に付けるためには「心理的安全性の高い信頼される学校運営が不可欠」と信じる。

子どもたちのウェルビーイングを高めるため「教師をはじめ学校全体もウェルビーイングを高めることが必要だ」と捉える。「学校訪問や研修事業を通して、各学校を下支えしていきたい」と力を込める。

着任から4ヵ月。学校訪問を通して、1人1台端末のさらなる活用を模索する段階にあることを実感した。情報リテラシーの育成やICTを適切に使用する知識・判断力を養

い「情報化社会を生き抜く力を身に付けてほしい」と期待する。

かつての上司に「花には水を、人にはユーモアを」と教えられた。当時は真意を測りかねたが、管理職に就き、金言が身に染みる。月に1度、職員に向けて「サンクスメッセージ」を送る。日頃の感謝を伝えることで、働きやすい職場づくりや風通しの良い環境を整える。

モットーは「なせばなる」。未経験分野の職務に従事した際に「どのような課題でも解決の方策はある」と気付いた。課題の先にいる人の存在を意識し、目の前の課題に真摯に向き合う姿勢を大切にしている。

趣味は温泉巡り。管内の温泉の豊富さに胸を躍らせ「十勝を満喫したい」と笑みをこぼす。

わた・こういち

平成3年札幌学院大学法学部卒。令和元年羅臼町教委教育長、4年道教委教職員育成課長、5年道保健福祉部子ども家庭支援課長、ことし4月現職。

昭和44年3月11日生まれ、56歳。小樽市出身。

【釧路発】中標津高校（廣川雅之校長）は、PTA会報第199号「N高PTAだより」を発行した。

西垣努会長と廣川校長のあいさつや、本年度着任した教員等を紹介している。

学びの道筋描く授業

道教大附属函館小が研究大会

【函館発】道教大学附属函館小学校（永澤篤校長）は7月下旬、同校で7年度教育研究大会を開いた。6授業の公開、3教科の実践研修会を展開。4年生国語科の公開授業では、ダウト文の提示によって確かな文章の読み解きとより深い考察を促し、登場人物の気持ちに対する児童の想像力を引き出した。



研究主題は「新たな価値を創造する力」の育成を目指して「学びの道筋を描きつなぐ子」。批判的思考、リスク管理、目的意識の3点を、各教科の指導事項と結び付けて一体的に育んでいる。永澤校長は開会に当たり「一つきの第2四半期、第3四半期へと研究のマネジメントを回す」「教材「ごんぎつね」を用いた単元「気持ちの変化に着目して読み、感想を書く」を公開し写真」。学習を通して「ごんぎつね」に対して自分の考えを持ち、友達と考えを共有しようとする姿を「学びの道筋を描きつなぐ子」として目指している。全11時間のうち5時間目になる本時、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している」を目標に、課題を「ごんぎつね」の気持ちの変化を想像して読もう」と設定した。前時の振り返りを踏ま

え、本時で扱う教科書の中からカッコ書きに着目して、児童と共にせりふと心内語に分類。ごんぎつねの行動に関する表現に対しては、行動の背景やその気持ちを考えて発表した。佐藤教諭は「ごんぎつね」の行動に関して、あえて誤った情報を加えた三つの「ダウト文」を提示。児童は違和感を持った箇所を自ら指摘し、佐藤教諭は児童の声を踏まえて修正した。三つの文章から一つを選

び「ごんぎつね」の気持ちを想像しながら交流するグループワークを展開。児童たちは「ごんぎつね」の行動から「隠れないと見つかったらどう」「何を話しているんだろう」「何を考えていること」など、考えていることや気持ちを読み取った。また、佐藤教諭は作中の「兵十のかけぼうしをふみふみして」の「ふみふみ」という表現に着目。登場人物間の距離や気持ちを、場面の移り変わりと結び付けて考えるよう促した。

附属函館中 九島さん最優秀

中学生水の作文道地方コンクール

道は、第47回「全日本中学生水の作文」北海道地方コンクールの入賞者を決定した。同コンクールは、中学生を対象に、水についての理解・関心を深めることを目的として実施。自分にとっ

ての水とは何かを、暮らしや授業で学んだこと、調べたことをもとに、作文で表現したもの募集した。応募総数127編、応募校8校のうち、個人賞は7編、学校賞は4校が受賞。個人賞の最優秀賞は、道教

育大学附属函館中学校の九島希奈さん（3年）の「身近なことから世界に向けて」に決まった。表彰者には道知事名で、賞状と副賞を贈呈する。

また、入賞作文のうち4作品は「全日本中学生水の作文コンクール」の中央審査の対象として国土交通省に推薦する。

コンクールの結果はつぎのとおり。敬称略

▼個人賞

▽最優秀賞 九島希奈（道教大附属函館）

▽優秀賞 羽川莉子（砂川市砂川）

▽入選 楠原瑛太（旭川市東鷹栖）、後藤せり（千歳市青葉）、鈴木嶺我（栗山町栗山）、平萌希（岩見沢市北村）、山本香里奈（岩見沢市北村）

▼学校賞

▽旭川市東鷹栖、北見市相内、千歳市青葉、羽幌町焼

思考ツール活用で探究型の学びの充実を

勤務校紹介

本校は、学級数7（特別支援学級2）、生徒数138人、教職員数25人で、苫小牧市と登別市に隣接し、穏やかな気候と樽前山を代表とする山々を背景に広大な河川など豊かな自然環境に恵まれている学校である。7年度は「学びの創造」を学校経営推進のテーマとして、白老町スタンダードによる授業改善、生徒指導の機能を生かした授業実践などを経営の重点とし、管理職のリーダーシップのもと、全教職員が一つのチームとなって取組を進めている。

したり、理解を促したりしやすいかという観点や、児童生徒が学習の道具や環境として適切にICTを用いて学習を進めることを教員が促す観点を含めて、授業力の育成を図ることが求められている。本校では、各教科の授業だけではなく、授業以外の場面において、日々の連絡や職員会議をはじめとする学校経営推進のテーマと

寶福 舎 主幹教諭

白老町立白老中学校(前田道弘校長)

“令和の学校”を支えるⅡ No.37

白老町立白老中学校(前田道弘校長)

ICTの活用
授業におけるICTを用いた指導法については、教員が授業のどの場面でのような教材を提示すれば児童生徒の関心意欲を引き出

は、自ら問題を見いだし、解決方法を探して決定し、実行し、振り返る過程を重視する授業改善や、小・中・高といった学校段階間の連携の強化、望ましい学習習慣・生活習慣の定着に向けた家庭や地域との連携などの取組を一層充実させ、一人ひとりの可能性を伸ばしながら、資質・能力が身に付くよう児童生徒を育成することが求められている。

本年度、私は研修担当教諭と連携し、1人1台端末上での「思考ツール」をワンタッチで切り替えられるようにし、1人1台端末上における「思考ツール」の積極的な活用を校内の先生方に提案した。全ての教科で「思考ツール」を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、組織的な取組となるよう、校内研修を積み重ねている。

一方、本校の課題の一つは「取組のねらいが曖昧になること」と考えてい

本校では、本年度「学習に見通しをもち、自ら学び続ける生徒の育成を目指した授業づくり」を研究主題とするともに、「見通しをもたせるための効果的な手立ての検討」および「身に付けさせたい力を明確にした授業づくり」の2本の柱を中心に校内研修を推進

今年度の抱負・エピソード
昨年12月から次期学習指導要領改訂に向けた検討が始まった。学校に求められる内容は、時代によって変わるかもしれないが、私の教師としての思いは変わらない。私が、教師として大切にしている言葉は「中庸である。」「偏



【ほうふく あらか】
平成20年同朋大卒。同年苫小牧市立光洋中を振り出しに、24年白老町立白老中、29年登別明日中等、令和3年胆振教育局義務教育指導班指導主事、その後、主任指導主事。7年白老町立白老中に勤務。昭和59年9月11日生まれ、40歳。函館市出身。

【前田校長から】
宝福主幹教諭は公立中学校の石澤和也教諭です。

次回は、千歳市立千歳中学校の石澤和也教諭です。



授業中、生徒に寄り添う 国語科・思考ツールで学ぶ生徒

檜山校長会 管理職研修会

仕事の半分は人材育成

函館美術館・辻館長が講話

【函館発】檜山校長会（佐藤等会長）は7月下旬、江差町内のコミュニティプラザえさしを主会場に檜山管理職研修会を開いた。写真。道立函館美術館の辻俊行館長を講師に招き、オンラインを含め教職員45人が参加。講話を通して、学び続ける管理職としての在り方を考え、管理職としての職能向上を図った。

佐藤会長は開会に当たり「これからの新しい教育の在り方に目を向けながら、今までつながってきた学校管理職の本質というパトンの意味を再確認したい」と述べた。

辻館長は「教員として、管理職として、どう生きるか」と題して講話。渡島管内での教員経験、道教委や各教育局、函館市教委教育長としての行政経験を通じて、現代の教育課題との向き合い方などを説いた。

教職の特質に「社会を創り、支え、発展させる世代でありながら、次世代を育てていく」ことを挙げた。教員および社会人として「自分を俯瞰し必要な改善・調整を行う」「自分の特性を知り、全体のレベルを上げつつ得意分野をさらに伸ばす」ことの重要性を示唆。「学校管理職の仕事の半分は人材育成。校長や教頭は先生方にとって最も身近にいる助言者のため、あらゆる分野を知っている必要がある」と伝えた。



校長は校区の児童生徒・保護者を、教育を通じて幸せにすることが求められる中、着任した瞬間から「つぎの人」にどんな状態で引き継ぐか「自分の代でどんな課題をどこまで解決するか」を考える必要があることを強調した。

渡島教育研究所が研修講座

「先輩」の実践に学ぶ

初任段階・期限付教員対象に

【函館発】渡島教育研究所（小林和規所長）は7月下旬、北斗市総合文化センターで、管内小・中学校の初任段階教員・期限付き教員等を対象にした研修講座を開いた。先輩教員によるサポートのもと演習を行い、実践に向けて研鑽を積んだ。

小林所長は開会に当たり「先生方に求められる資質・能力は使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、コミュニケーション能力など多岐にわたる。できることから一つ一つ着実に身に付けていってほしい」と呼びかけた。

演習では小・中学校、特別支援学校に勤務する6人の講師がブースを設置し「写真」「授業づくり」「算数の授業実践」「ICTを活用

にどれほどの「信頼の貯金」ができるかが勝負」と呼びかけた。

また、教頭の業務肥大化は課題の温床になることを注意喚起した。

校務分掌は学校運営を成り立たせるために必要な業務を職員が分担することである

「教頭は予期せぬ仕事を預かる一時保管庫。翌年には分掌に位置付けたり、新たに分掌をつくらたりする必要がある」と説明。「それぞれの職が、上位の職を少しずつカバーしている状態」をより良い組織として説いた。

表した。

うち道教育大学附属函館小学校の鈴木悠太教諭は算数科での実践事例を説明。「授業後半の練習問題をレベル分けして、やる気アップ」「算数の学びを日常生活へつなげてみよう」「児童生徒、保護者との関係づくり」をテーマに実践を交えた。

比布町教委 まなび場びっぷ

多様な考え広げる機会

大学生や他学年と交流深め

【旭川発】比布町教委は5、8日、町農村環境改善センターで「まなび場びっぷ」を開催した。写真。夏休みなど長期休業期間限定のイベントで、(株)コエルワ（旧例あしたの寺子屋）と4年度から取り組んでいる協働事業。町内在住の小・中学生や高校生が参加し、コエルワスタッフの大学生や他学年の児童生徒との交流を通じて、多様な考

の分配、要配慮者への支援などを模範的に、ゲーム感覚で、避難所運営する体験を行った。

同所の谷川洋史社会教育主事は「本年度から雪害・水害・地震それぞれをテーマにした体験活動が新たに加わり、学習指導要領にのっとった内容構成とし、学校の教育活動への支援を、より強化できるプログラムになっている。また、講義形式と体験形式の両方に対応でき、学校の実態や宿泊研修のプログラムのように整備されている」と述べた。



事業の企画・運営や児童生徒と交流する大学生・社会人のセッティング等は、コエルワ（旧例あしたの寺子屋）と町教委が担当。同社の大室果樹マネージャーと町教委の鈴木琢己主事が中心になって準備を進め、事業名を変更してから1回目のイベントを開催することができた。

当日は町内在住の児童生徒とコエルワスタッフを合わせて約20人が参加した。

大学生と校則改善に向けて協議する比布中央学校生徒会役員

複合施設愛称募集

9月6日セミナー

8月25日まで受付中 深川市

【岩見沢発】深川市は、9月6日午前9時30分から市役所で複合施設愛称募集企画「伝わるネーミングセミナー」を開催する。申し込みは8月25日まで。申し込みは8月25日まで。

来年度の9月に開設予定の複合施設に向けて、セミナーを実施。プランニング視点で学び施設やまちづくりの機会を知りたい。対象は小学5年生以上。

電話または専用フォームから申し込む。

問い合わせは、市複合施設整備推進室・電話0164(26)2240まで。

貸事務所、貸店舗

第一、第二、第五道通ビル。札幌駅より徒歩三分。道庁に近。冷暖房、立体駐車場。地下に飲食店街があります。地下貸飲食店舗、一階貸店舗。三階以上貸事務所。委細面談。

道通ビル 入居者募集

お問い合わせは 北海道通信ビル株式会社 札幌市中央区北五条西六丁目 電話(011)221-3316番

http://dotsu-bldg.net

津波の恐ろしさを実感

旭川小宿泊研修で防災A・P

ネイパル・深川

【岩見沢発】ネイパル深川は、道教委が進めている「防災A・P」を展開している。7月上旬には、同所で宿泊研修を実施した旭川市立旭川小学校（樋部治彦校長）に対し「津波の速さを知ろう」「防災食作り（蒸しパン）」「避難所運営には何が必要か？」の三つのプログラムを実施。参加者は津波の恐ろしさを体感するなど防災への意識を高めた。

ネイパル防災A・Pは、災害が発生した場合でも、子どもたちが主体的で安全に行動できる力や、進んで貢献する態度を育成することを目的とし、宿泊研修でネイパル深川を利用する



小・中学校や、依頼があった学校に出向いてプログラムを提供している。

今回は、旭川小の宿泊研修の一環として防災A・Pを実施。本年度からプログラムに取り入れた「津波の速さ」を実感する取組では、約20分の特設コースで、時速25kmの速さで走るミニ四駆と競争することで、津波の到達速度の速さを体感した。写真。

子どもたちは「もう一回」と何度も挑戦。ミニ四駆のスピードに驚きつつ、「実際の津波はこれ以上速い」との説明に真剣な表情を見せた。

また、津波の高さの例として紹介されたのは、施設に設置されている11層のクライミングウォール。「あんなに高い波で、ミニ四駆

また、本宮ゆかり副所長は「学校からの様々なニーズに応えられるよう準備を進めてきた。子どもたちが、防災を自分事として捉え、命を守る行動につながるきっかけを届けたい」と語った。

道議会質疑

一般質問(3月6日)

【質問者】

- ▼榎垣尚子議員 (自民党・道民会議)
- ▼寺島信寿議員 (公明党)
- ▼佐々木大介議員 (自民党・道民会議)
- ▼広田まゆみ議員 (民主・道民連合)
- ▼大越農子議員 (自民党・道民会議)
- ▼丸山はるみ議員 (日本共産党)
- ▼山崎真由美議員 (維新・大地)
- 【答弁者】
- ▼鈴木直道知事
- ▼山本倫彦総務部長兼北方領土対策本部長
- ▼加納孝之環境生活部長
- ▼野澤めぐみ保健福祉部子ども応援社会推進監
- ▼水口伸生経済部長
- ▼田中仁経済部ゼロカーボン推進監
- ▼中島俊明教育長

食品ロス削減

Q 榎垣議員 道内の学校では、地場産物を活用した給食の提供、食育便りの発行、児童生徒の調理場見学など、学校給食を活用した食育が行われている。

道内の子どもたちが幼少期から食事の重要性を感じ、食の生産、加工、調理等に携わる方々への感謝の気持ちを持つことができるよう、学校において、給食の時間等を通じてこれらの意識を高めるための取組が行われることが重要だ。

洋上風力発電 関連人材育成

Q 佐々木議員 道内では、複数の海域で洋上風力発電の促進区域の指定に向けた手続きが進められており、今後の導入を見据え、洋上風力発電に関する人材育成を進めていくことが重要と考える。

特に、洋上風力発電の運転開始後、約20年間にわたって必要になる運転保守やメンテナンス業務は地元人材の活躍の場としても期待されており、道内においても、洋上風力関連の人材を育成する訓練施設の誘致に向けた動きが広がっている。

A 中島教育長 学校における食に関する指導について。児童生徒が食べ物や食料の生産等に関わる人々へ感謝する心を持つことや、各地域の産物、食文化や食に関する歴史等を理解し、尊重する心を持つことは重要である。

道内では、生産者との交流給食会や給食感謝の会などを行っている学校もあり、道教委としては、こうした取組を広く紹介するとともに、各学校において、給食便り等を通じた家庭の食品ロスを減らす取組を働きかけてきており、引き続き、児童生徒が食事の重要

質問 Question 答弁 Answer 指摘 Point out 意見 Opinion 要望 Demand

Q 高校DX加速化推進事業においては、採択校が、ICT機器を整備し、デジタル分野を支える人材の育成に向けて、創意工夫を凝らした教育活動を推進していることと承知している。

道教委は、本事業において、これまで、どのような取組が行われ、それによって、どのような成果や課題があったと認識しているのか、伺う。

A 中島教育長 高校DX加速化推進事業について。高校DX加速化推進事業、通称DXハイスクールは、大学段階でデジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、高校段階における成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要という考え方のもと、情報等の教育を重視するカリキュラムの実施や、ICTを活用した文理横断的、探究的な学びを推進する学

Q 榎垣議員 道教委では、生涯学習社会の実現のため、市町村や高等教育機関、産業界と連携を図りながら、社会の要請に

域の指定に向けた取組が進んでおり、今後、本道での経済波及効果の拡大に向けては、建設工事やメンテナンス作業など、海上作業を含む専門的な分野における人材の育成が必要になるものと認識しているところである。

Q 中島教育長 洋上風力発電に関する人材育成について。洋上風力発電のような新たな分野に関する人材の育成は、道民の新たなニーズに応じた事業を展開しているところである。

生涯学習を通じた地域創生を支える人材の育成はさ

A 田中経済部ゼロカーボン推進監 洋上風力発電に係る人材育成・確保等について。道内では、洋上風力発電に関し、現在、5区域において再エネ海域利用法に基づく促進区

心えるとともに、様々な環境にある道民の多様な学習機会を提供するため、道民カレッジを実施している。

道教委は、道民カレッジ事業のプログラムをどのように見直しを行い、今後どのように本道における生涯学習の推進に取り組んでいくのか、伺う。

道立美術館の魅力向上

Q 寺島議員 道内には、近代美術館はもとより、旭川、函館、帯広にも道立美術館があり、それぞれの地域特性や地域のニーズ、文化環境などに応じ、より多くの方に親しまれ、足を運んでもらえるよう、地域の関係機関や団体、ほかの施設等とも連携して、魅力ある展覧会の開催やイベントをはじめ、学校の教育活動への支援も行うなど、地域にとって大きな役割を果たしている。

最近では、国内外から来道する観光客も多くなっている様子が見え、各地の道立美術館においても施設の老朽化が進んでいるなど、美術館を取り巻く状況を踏まえ、道立美術館がソフト面とハード面で一層の魅力向上を図り、本道の文化振興に寄与することが期待される。今後どのように取り組むのか、伺う。

A 中島教育長 洋上風力発電に関する人材育成について。洋上風力発電のような新たな分野に関する人材の育成は、道民の新たなニーズに応じた事業を展開しているところである。

生涯学習を通じた地域創生を支える人材の育成はさ

子どもの遊び 環境の保障

Q 広田議員 北海道の子ども政策の目玉として、北海道の強みを発揮する子育て環境を道内外にアピールするためにも、森のようちえんや、自然保育の認証や支援制度について検討すべきと提言を重ねてきたところだが、検討状況

また、この計画にある

A 中島教育長 道立美術館の魅力向上について。道教委では、施設の老朽化が進んでいる近代美術館のリニューアルに向け、アートの潮流や展示技術の変化を視野に入れた展示機能の充実や、学校教育との連携によるフーニ

また、道立美術館では、これまで、地域ゆかりの作家など、地域の特性を生かした系統的、計画的な作品収集に努めるとともに、道内の美術館と所蔵作品の相互紹介や、各種イベント、PR活動等を行うアートギャラリー北海道などを通じて、多様な鑑賞機会の提供や美術館に親しむ環境づくりに取り組んでいるところであり、今後とも、道立美術館と地域の美術館とのネットワークをより充実させ、デジタル技術等を活用した効果的な情報発信を行うなど、道内美術館全体の魅力向上を図りながら、本道の観光振興や地域の活性化等につながるよう取り組んでいく。

今後、引き続き、知事部局や関係機関等との連携を一層強め、専門機関等の知見も活用しながら、高校生の洋上風力発電への興味・関心を高め、一人ひとりの希望に添った進路選択ができるよう取り組んでいく。

A 野澤保健福祉部子ども応援社会推進監 自然環境を生かした子どもの居場所等について。自然との触れ合いは、子どもが豊かな感性を育む上で大切な機会の一つであると考えており、道内の保育所等では、地域特性を生かし、様々な特色ある取組が実践されていることから、道としては、今後とも、そうした事例の共有を進めていく。

(6面から続く)

その指標として、教育支援センターやフリースクール等において、相談、指導や支援を受ける児童生徒の割合を9年度までに100%にすることとしている。

道教委では、今後も、引き続き、不登校児童生徒一人ひとりの状況等に応じた多様で適切な教育機会が確保されるよう、各市町村教委に対し、教育支援センターの設置促進を働きかけていく。

Q 丸山議員 旭川市のフリースクールを視察したが、フリースクールの利用などで出席扱いになっても、登校していないことをもって成績は1とされてしまい、高校受験を控える中学生などの進路が制限されてしまうと聞いた。

昨年8月の通知では、欠席中の学習を成績に反映する要件が示されている。フリースクール利用や道が導入するメタバースでの学習支援を成績評価に反映することを求める。また、学びの多様化学校の設置を道内でも進めるべきと考えるが、いかがか。

A 中島教育長 不登校児童生徒の学習評価等については、国の通知においては、誰一人取り残さない学びの充実を図るため、不登校児童生徒の努力の成果について適切な評価を促進するという考え方が示さ

れ、道教委では、不登校児童生徒の学校外での学習状況を積極的に把握し、適切に評価するよう指導してきており、各学校では、保護者や教育支援センター、フリースクール等と連携し、不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果を成績に反映するよう努めている。

また、学びの多様化学校については、道内の一部の自治体で設置に向けた準備が進められているところであり、道教委では、こうした取組や、道内外の特色ある教育課程や教育実践を調

子ども子育て

Q 山崎議員 国では、5年12月、子ども施策の基本的な方針等を定めることも大綱を策定した。

その中では、保護者の所得など、家庭の状況が教育における格差につながる問題に触れており、子どもが多様な体験や遊びなどができる機会を確保し、必要な場合に支援につなげるための

取組を支援するとされている。

また、例えば、大阪府では、子ども輝く未来基金を設け、子どもの体験活動を支援している。遊びや体験活動は、子どもの健やかな成長の原点であり、その確保は大変重要と考える。そのような中、道でも、7年度予算で、体験活動を行うことが難しい子どもへの支援として新たな事業を実施されるが、本事業を実施するに至った背景や今後の取組について、知事の所見を伺う。

A 野澤保健福祉部子ども支援社会推進監

こどもの体験活動促進事業について。道が実施した子どもの生活実態調査では、過去1年間に親子で旅行やキャンプに行った経験がない子どもの割合は、家庭の所得によって約3倍の開きがあり、生育環境によって体験活動や学びの機会に格差が生じる状況が見られたところである。

子どもは、様々な学びや遊び、経験を通じて成長するため、道としては、本調査結果等を踏まえ、体験活動を行うことが難しい子どもを体験。子どもたちは自己紹介、名札作りのあと、手話を使いながらの「ねずみくんのチョッキ」などの絵本を読み聞かせやババ抜きを通して、徐々に打ち解けた。

体育の授業では、風船を用いたキャッチボールや風船バレーなどを体験。



風船が落ちないようラリーをつなげた。

バスで街めぐり

9月26日に開催 釧路市まなぼと

【釧路発】釧路市生涯学習センターまなぼとと幣舞は、9月26日午前9時30分から午後3時30分までライファップ講座「バスで行く釧路街めぐり」を開催する。

【留萌発】苫前町郷土資料館などは、町公民館研修室で、特別展「忘れられた戦争〜日本が負けた日」を29日まで開催している。パネル展や戦争関連資料などを展示している。開催時間は午後1〜4時まで。24日は休館。

少年の主張十勝地区大会

東日本大震災を胸に刻んで

帯広第五中2年・松本美海さん

【帯広発】十勝総合振興局は7月上旬、帯広市内のよつばアリーナ十勝で7年度「少年の主張」十勝地区大会を開催した。審査の結果、「東日本大震災を胸に刻んで」をテーマに発表した帯広市立帯広第五中学校2年生の松本美海さん（写真）が最優秀賞に輝いた。震災の年に生まれた松本さんは、祖母から被災の体験を聞き、日常の景色が一変。大切な人を守るために、震災の恐ろしさや残酷さ、命の大切さ、日頃の備えの重要性を訴えた。



月11日、私はまだ、母の おなかの中にいました。「家と家の間から大きな水の母は地震直後すぐに宮城 塊が押し寄せ、校舎に津波が に住む祖母へ電話をかけ 迫ってきている。児童名簿だけ ましたが、1週間ものを を握りしめて、校舎3階へ避難 間、連絡が取れなかった させた。全員が助かったわけではなかった」と祖母は低い声で 話しました。

「美海が生まれたのは東日本 大震災の年なんだよ。」 と母が言ったのは、私が小学 6年生の時でした。平成23年3

はこうしていたのでしょうか。 一昨年の夏休み、復興が進む石 巻市を訪ね、当時石巻市内の小 学校校長だった祖母に話を聞き

そして、学校へ迎えに来た保 護者と児童の後ろには、ものす ぎいスピードの津波が接近して

きていて「逃げて、もっと速く 走って」と声がかれるまで叫 び続けたけれど、彼らは私の目 の前であつという間に黒い壁の ような津波に飲み込まれてし まった。

その時の祖母の顔は今でも忘 れられません。一瞬で車や家、 人までも飲み込み、命を奪うな んて、現実にはそんなことが起 きるなんて。恐ろし過ぎる、悲 惨過ぎる、と言葉には表せない 感情でいっぱいになりました。 祖母の学校は物資の備蓄がな く、震災から3日目までは、1 日1杯の水とカップばいせん2 本、ポテトチップス3枚しか食 べるものがありませんでした。 雪が降る深夜の学校は相当冷え 込んでいたので、暗幕やカーテ ンで身を包み、体を寄せ合っ て寒さを乗り切ったそうです。

私は、家族と離れ離れにな るだけでも心が折れそうなの に、わずかな量の食事しか取れ ないなんて信じられない。帯広 に、祖母は、先を見据えて生き

提供するものであり、ぜひとも広く展開していくべき 取組だと考えるが、新たな 取組ということもあり、十 分な額を確保できている。

大阪府の子ども輝く未来 基金では、年間寄付目標を 5000万円に設定して取り 組んでいる。大手企業からまとまった多額の寄付実 績もある。

道においても、多くの子 どもたちが体験機会を確保 できるよう、多くの民間資 金の獲得に向けてしっかりとPRを行い、取り組んで いただくことを求める。

対象に、先着24人募集す る。 参加料は1500円、筆 記用具と飲み物を各自持 参。

忘れられた戦争 29日まで特別展 苫前町郷土資料館

私は、友達や先生、家族…大 切な人を誰一人失いたくない。 だから、伝えていきます。東日 本大震災を胸に刻んで。

